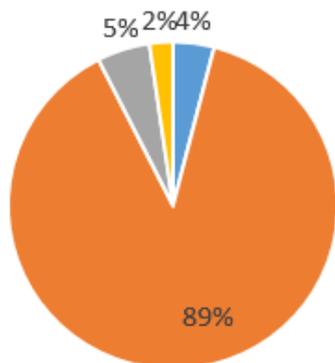


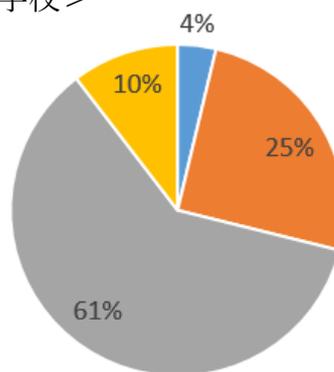
第 1 回 幼保小連携に関わる調査<アンケート調査（教職員用）> 結果

Q 1 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解していますか。

<幼児教育施設>



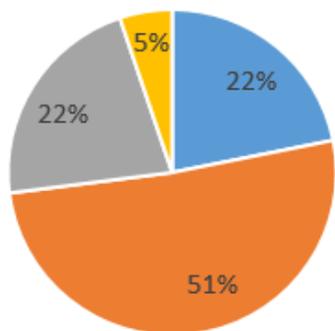
<小学校>



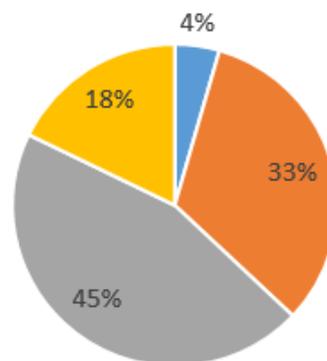
■理解している ■おおむね理解している ■あまり理解していない ■全く理解していない

Q 2 幼保小の合同会議や園内・所内・校内の研修会等の中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が話題になることがありますか。

<幼児教育施設>



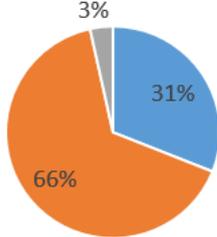
<小学校>



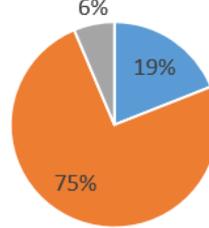
■よく話題になる ■ときどき話題になる ■あまり話題にならない ■全く話題にならない

Q3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見たとき、次の10の姿について、どのように感じていますか。当てはまるものを1つ選択してください。
 ※令和4年度に自園を卒園した年長児（5歳児）の1～3月頃の姿を見て

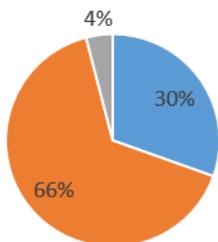
1) 健康な心と体



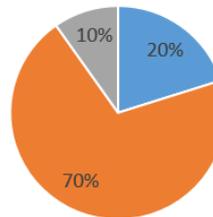
2) 自立心



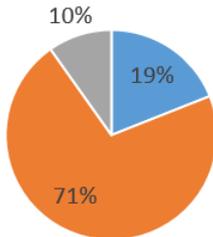
3) 協同性



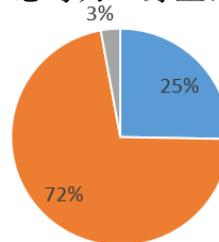
4) 道徳性・規範意識の芽生え



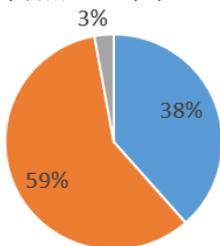
5) 社会生活との関わり



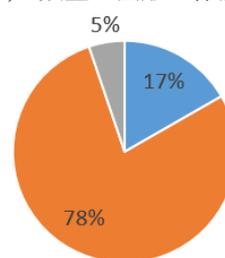
6) 思考力の芽生え



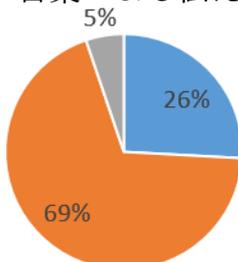
7) 自然との関わり・生命尊重



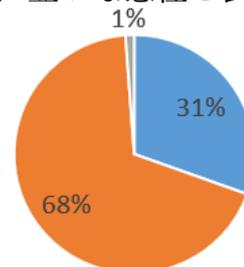
8) 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚



9) 言葉による伝え合い



10) 豊かな感性と表現

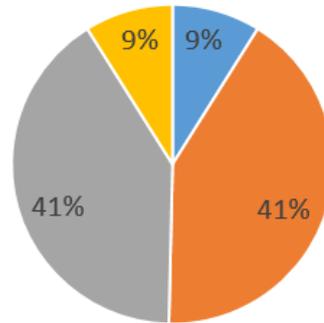
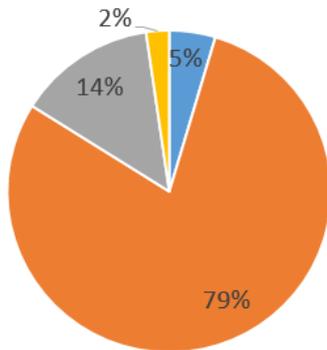


■よく育っていると感じた ■おおむね育っていると感じた ■課題を感じた

Q 4 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「小学校学習指導要領」では、育てたい「資質・能力」の3つの柱を示しています。その3つの柱について理解をしていますか。

<幼児教育施設>

<小学校>

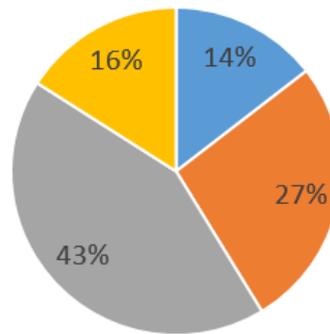
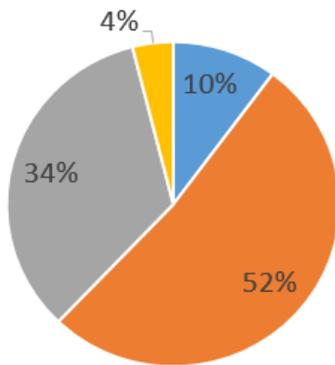


■理解している ■おおむね理解している ■あまり理解していない ■全く理解していない

Q 5 Q 4 の3つの柱について、園内や校内の研修会等で話題になることはありますか。

<幼児教育施設>

<小学校>



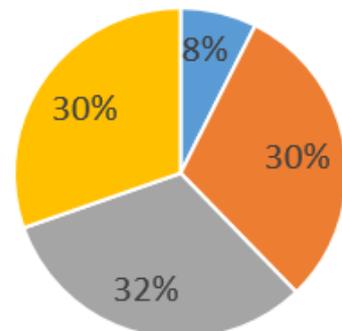
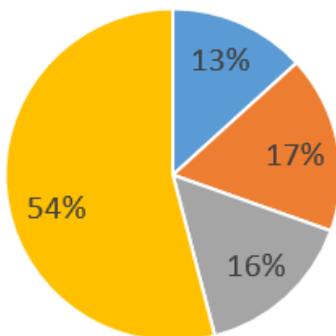
■よく話題になる ■ときどき話題になる ■あまり話題にならない ■全く話題にならない

Q 6 小学校の授業参観に参加したことがありますか。

Q 8 幼稚園・保育園・こども園の保育の様子を参観したことがありますか。

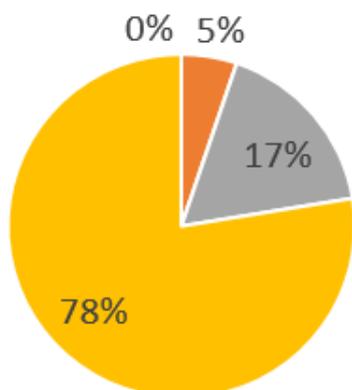
<幼児教育施設>

<小学校>

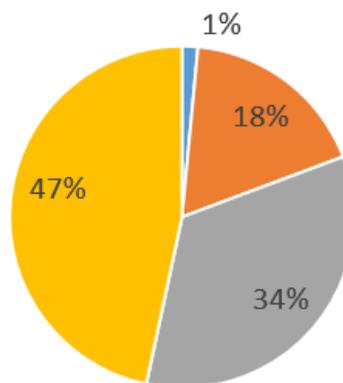


■よくある ■たまにある ■めったにない ■まったくない

Q7 小学校の職員と一緒に研修をした
ことがありますか。
<幼児教育施設>



Q9 幼稚園・保育園・こども園の職員と
一緒に研修したことがありますか。
<小学校>

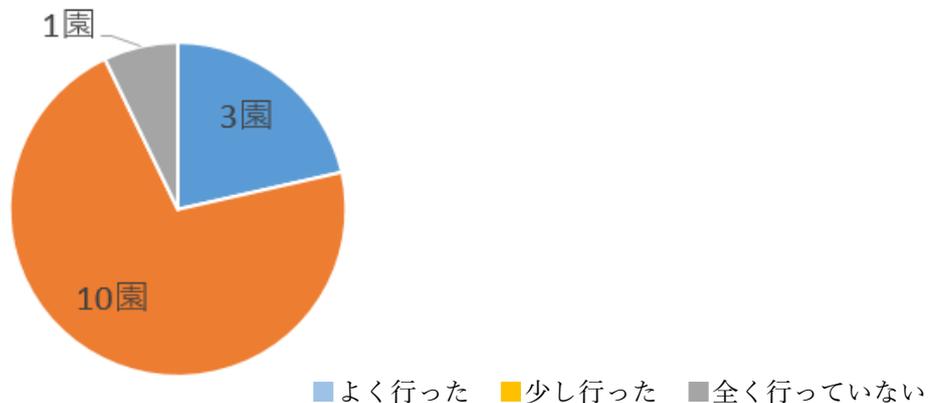


■よくある ■たまにある ■めったにない ■まったくない

第 1 回 幼保小連携に関わる調査<アンケート調査（管理職用）> 結果

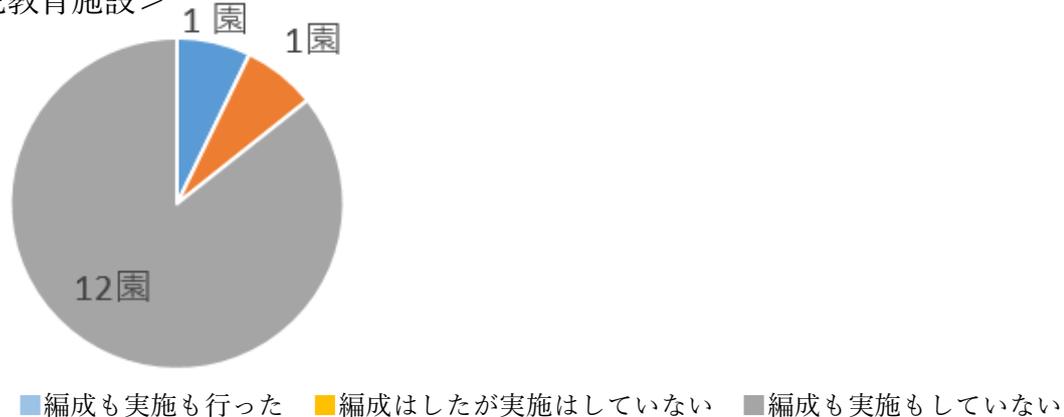
Q1 小学校教育との接続を意識した保育・教育課程の編成や保育・指導計画の作成を行いましたか。

<幼児教育施設>



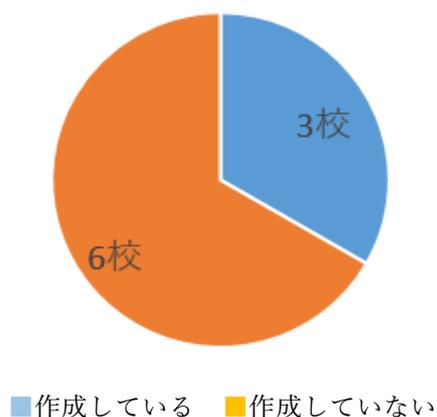
Q2 小学校と協同して、接続を意識したカリキュラムの編成し、実施しましたか。

<幼児教育施設>



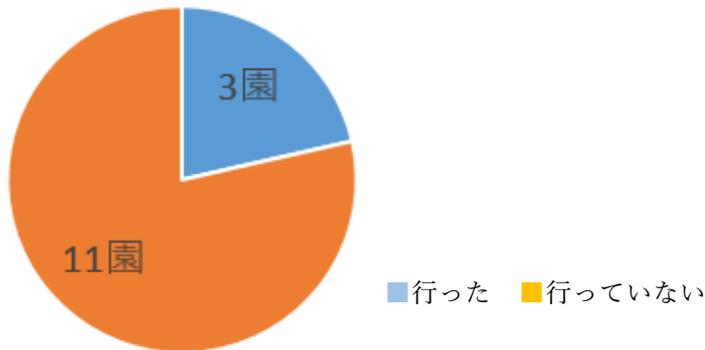
Q3 接続期カリキュラムを編成していますか。

<小学校>



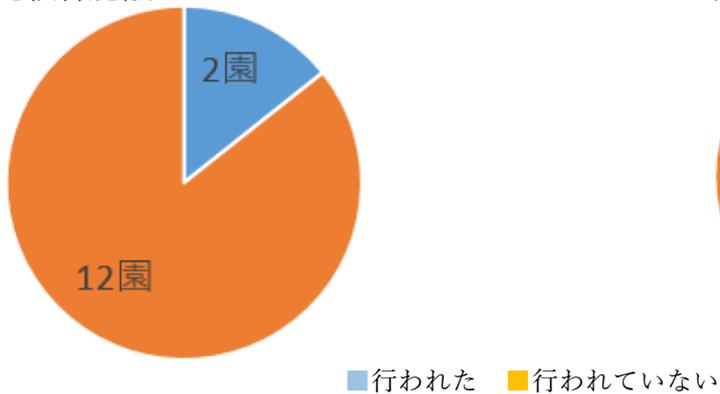
Q4 小学校のスタートカリキュラム作成に関して、幼稚園・保育園・認定こども園の職員が助言・協力を行いましたか。

<幼児教育施設>

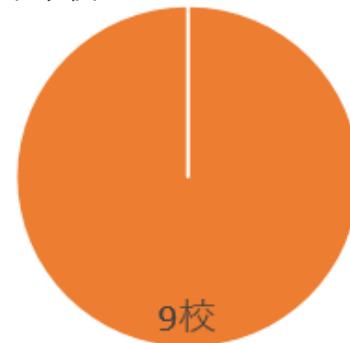


Q5 (小学校区において) 幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の職員の合同研修会は行われましたか。

<幼児教育施設>

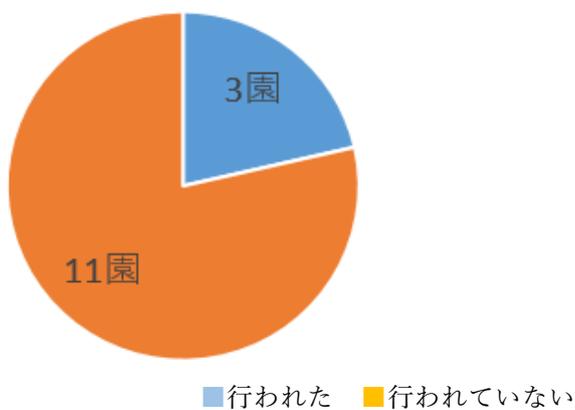


<小学校>



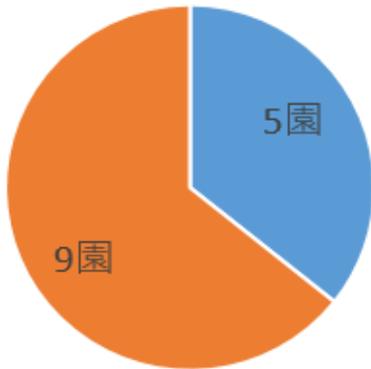
Q6 (小学校区の) 小学校の教員から、幼稚園・保育園・認定こども園の年長児の活動に関して助言・協力を行われましたか。

<幼児教育施設>

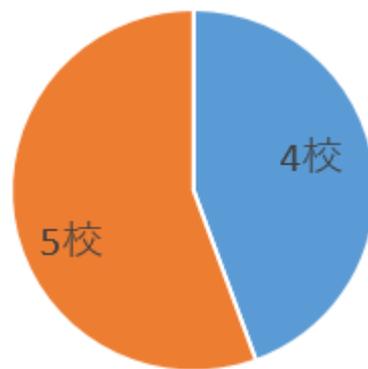


Q7 (小学校区において) 幼稚園・保育園・認定こども園の園児と小学校の児童の交流活動はありますか。

<幼児教育施設>



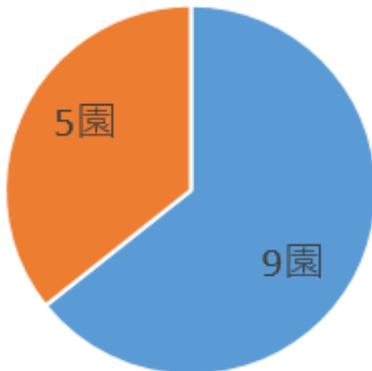
<小学校>



■ある ■ない

Q8 (小学校区において) 小学校の授業参観を行っていますか。

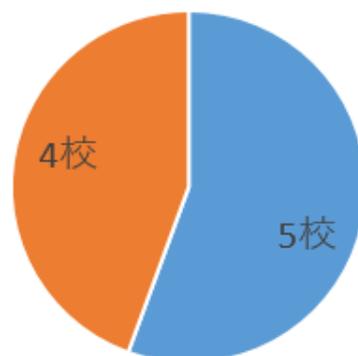
<幼児教育施設>



■行っている ■行っていない

Q9 (小学校区において) 幼稚園・保育園・認定こども園の授業参観を行っていますか。

<小学校>

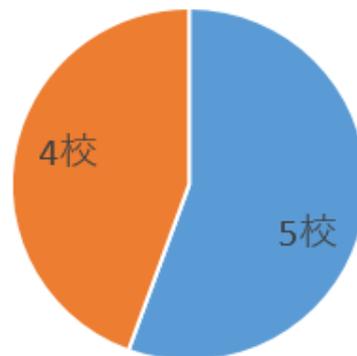
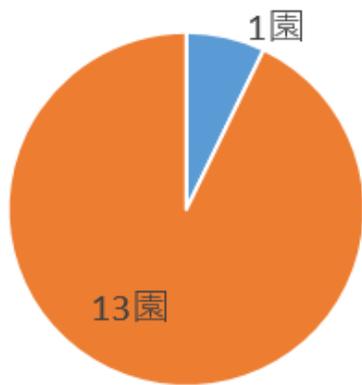


■行っている ■行っていない

Q10 幼保小連携のための分掌を設置していますか。

<幼児教育施設>

<小学校>



■ 設置している ■ 設置していない

第 1 回幼保小連携に関わる調査＜実態調査（管理職用）＞ 結果

1 小学校区における取組みについて

＜幼児教育施設＞ ※ 14 園が回答

各取組みを実施した園数（園）

A：園児と児童の交流	3 園
B：職員同士の研修や合同会議	14 園
C：地域の行事等に参加	1 園
D：学校参観、園参観	10 園
E：小学校実習・園実習	1 園
F：その他	5 園

＜小学校＞ ※ 9 校が回答

各取組みを実施した校数（校）

A：園児と児童の交流	4 校
B：職員同士の研修や合同会議	9 校
C：地域の行事等に参加	2 校
D：学校参観、園参観	7 校
E：小学校実習・園実習	1 校
F：その他	6 校

- ・「A：園児と児童の交流」「C：地域の行事等に参加」は、コロナ禍の影響で減少していると考えられる。一方、1年生がビデオレターを作成し、園児に視聴してもらう等の工夫ある取組みもあった。
- ・「B：職員同士の研修や合同会議」は、全小学校区で実施されていた。特に令和5年度に就学する園児の引継ぎについては、各小学校・園で行われていた。
- ・「D：学校参観、園参観」では、引継ぎに併せて園児の様子を参観している小学校は7校であった。参考事例として、福寿小学校では、10月に全職員が園児の様子を参観する機会を設定した。堀津小学校では、7月に園職員が小学校1年生の授業を参観したり、8月に小学校教職員が園参観したりして相互の交流が行われていた。

2 小学校と園の合同会議

＜構成員について＞

- ・小学校は、教頭、生徒指導主事、特別支援コーディネーター、1年生担任が多い。人数については、管理職1名＋1～2名で行われることが多い。
- ・幼児教育施設については、園長、主任、5歳児の担任が中心である。

＜内容について＞

- ・配慮が必要な園児についての引継ぎが多い。
- ・堀津小学校区では、園職員が1年生の様子を参観して、子供の育ちを視点にして意見交換が行われていた。

3 成果と課題についての意見（○成果 ●課題）

<幼児教育施設職員の意見>

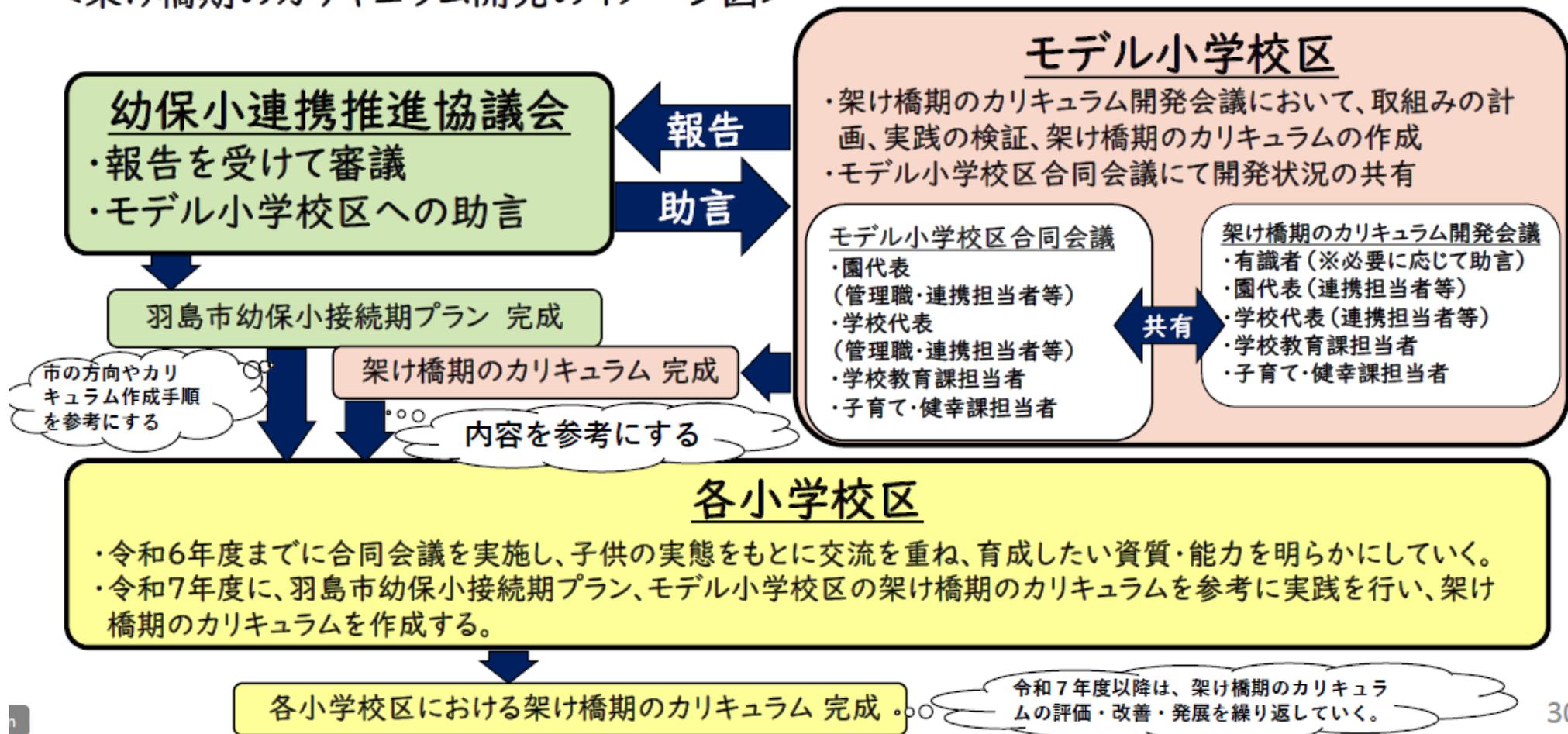
- 1年生からのビデオレターで卒園した子どもの様子が知ることができた。
- 園児の様子について、しっかり伝えることができた。また、保護者の様子も引継ぎができた。
- 園児の小学校訪問は入学準備としてよい。園児が小学校生活をイメージできる。
- 園参観をしてもらうことで、園児の普段の様子について実際に知ってもらえた。
- 園と小学校が話すことで、それぞれが大切にしていることを把握できてよかった。
- 小学校と避難訓練を行い、園と小学校の関係もより親密になった。

- 担任が平日の昼間に時間を空けることが難しい。
- 引き継いだ内容が、どのように活用されているか分からない。
- 特別支援について、小学校側の把握が遅く、配慮が必要な児童が特別支援学級等に入級できないことがある。5歳児検診を導入したり、発達支援センターから早めに情報を得たりする等の対応が必要である。
- 年1回の会議では少ない。交流の場を増やしたい。
- 園でうまくできていたことが、小学校でできないと聞くと残念である。小学校入学後に、学校に馴染めない場合は園に相談してほしい。
- 小学校は、配慮のいる児童ばかり質問する。管理しやすい児童を望んでいるようで、幼児教育の考え方との差を感じる。
- 園の様子を参観する小学校もあるのに、口頭だけで引継ぎが終わる小学校がある。
- コロナ禍で、園児と児童の交流が減っている。

<小学校職員の意見>

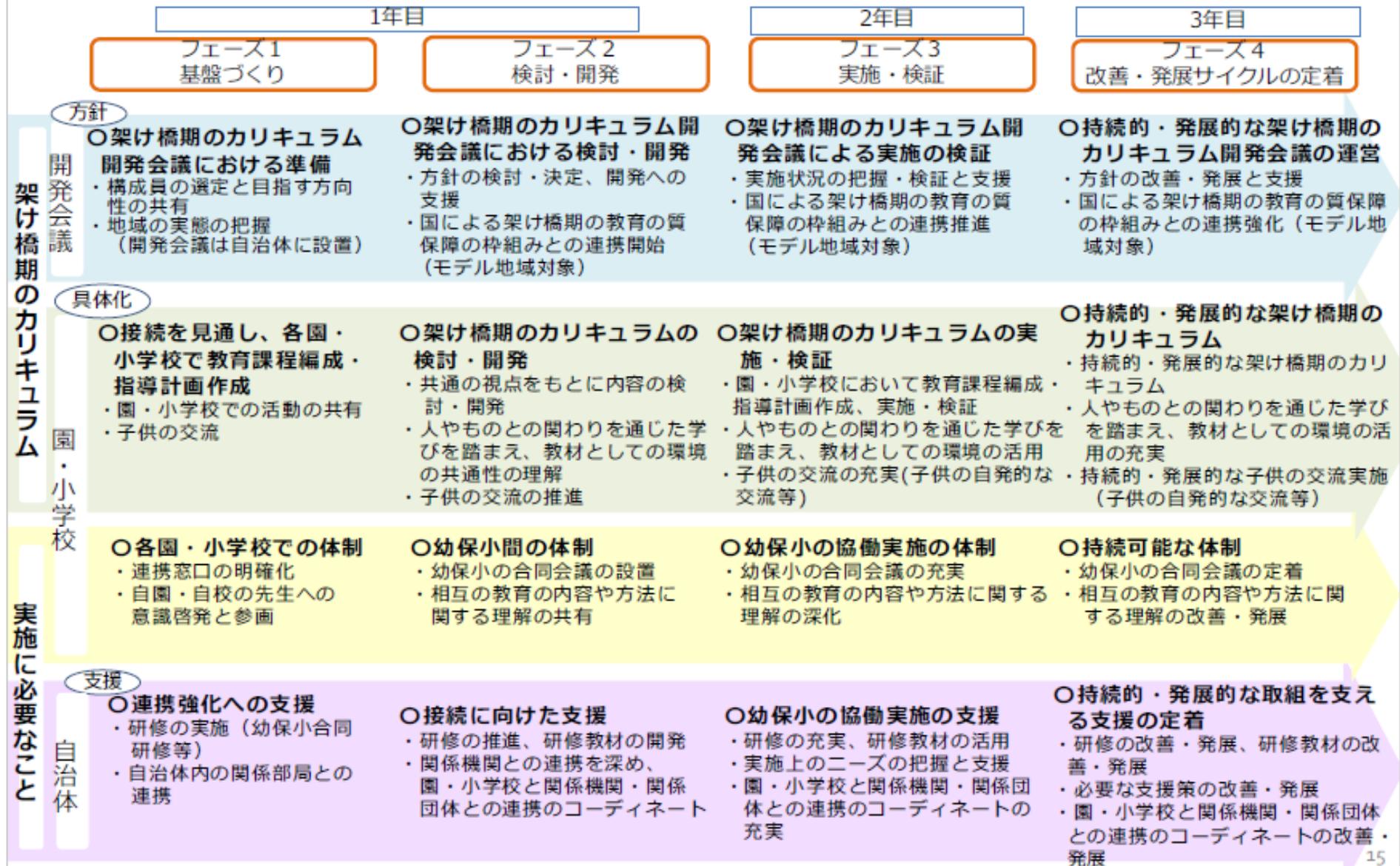
- 新入学児童の指導上の留意点を理解でき、新年度のスタートにつなげることができた。
- 園児を小学校に招くことは、小学校生活への不安の軽減や、期待感の高揚につながった。1年生にとっては、上級生になる自覚や下級生への思いやりをもつことにつながった。
- 保育士から、学校の教育課程に取り入れられそうな活動を助言してもらうことができた。
- 新1年生の授業を参観してもらった後、子どもについての情報交流を行ったことは、その後の指導の役に立った。
- コロナ禍で、幼保小連携が途絶えしまっている。職員同士、子ども同士の交流がさらに必要である。
- 特別支援教育についての、幼児教育施設と小学校との認識の違いを感じた。幼保小合同の特別支援の研修会も必要なのではないか。
- 小学校の職員研修の予定を園に知らせて、必要に応じて合同で行うとよい。

<架け橋期のカリキュラム開発のイメージ図>



2-(6) 進め方のイメージ

注：基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。



【参考】幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) p.15<R4.3.31 文部科学省>

3-(2) 開発会議で開発する架け橋期のカリキュラムのイメージ

- 架け橋期のカリキュラムについては、幼保小の先生が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるよう工夫する。そして、幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。
- 自治体や園・小学校での工夫を促しつつ、例えば、下記のような共通の視点を整理して示すことが考えられる。

		0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
共通の視点として考えられる項目例			4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子供像					
②遊びや学びのプロセス					
③園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等					
④指導上の配慮事項	先生の関わり				
	子供の学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり(※)				
				
⑤子供の交流					
⑥家庭や地域との連携					
...					

5歳児～小学校1年生（架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮）について、

- ・共通の視点から考えてみよう
- ・既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）
- ・既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）

(※) 以下「環境の構成・環境づくり」という。

【参考】幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）p.21<R4.3.31 文部科学省>